

「査」
昌也▽刑
(警察学校教
刑事部理事官兼捜

設置簡単 アルミ製わな

イノシシやシカなどの有害獣を捕獲する軽量で強度のあるアルミ製の箱形わなを、茂原市の金属加工会社「房総プラント」が製作し、販売し始めた。



茂原・金属加工会社 害獣捕獲に製作、販売

房総プラントが開発した軽量で強度のあるアルミ製わな

県内の自治体は、狩猟関係者の協力などを得て有害獣の駆除を進めている。シビエ加工するには生きたままの捕獲が条件となるため、いかに効率よく捕獲するかがカギという。

県内で広く使用されている箱形の捕獲わなは、鉄製で重量があるのに対し、同社が開発したアルミ製のわなは、重さ15kgほどの6パーツを組み立てる形式。持ち運びや設置が容易で、同社設計担当の斉藤章夫さんは「2人なら10分で組み上がる」と話す。わなの中に餌を置き、入ってきたイノシシやシカがひもに触れると、扉が閉まるシンプルな仕組みだ。

わなは「INORI(猪檻)」と名付け、間口1.8

高さ1.8、奥行き1.8の重量100kgサイズで25万円(税込み)。75kgの軽量サイズもある。大きさはオーダーメイドで対応可能という。

アルミ素材は熱伝導率が高いため、手際よく溶接しないと溶けたり、ゆがんだりする恐れがある。また、溶接時に金属内に空洞が発生しやすく、「強度を保つには熟練の溶接技術が必要」(斉藤さん)という。

工場の機械設備や野球のバッティングケージなどを製造する同社は、地域の課題となつている有害獣の駆除に、自社の技術が活用できると考えた。茂原市にシビエ食肉加工施設を開設した警備会社「ALSOCK千葉」から意見を聞き、試作を重ね、1年かけて製品化にこぎ着けた。

昨年12月からALSOCK千葉や茂原市、長南町が導入し、成果を上げているという。問い合わせは房総プラントアルミ事業部(0475・33・3712)。